

「トロント国際映画祭」コンペティション部門 正式招待決定を受けての監督コメント

【近浦監督のコメント】

2020年の春、まさに感染症が猛威をふるい始めた頃、やむを得ない個人的な事情で、東京と北九州を月に一度の頻度で往復するようになりました。ほぼ乗客のいない新幹線の車窓から変容していく世界を眺めながら、永遠に続くような移動時間を過ごしていたことを思い出します。80年代から90年代半ばにかけて多感な時期を過ごした北九州の街並みの記憶と、外出自粛で静かな目の前の小倉の景色が重なったり、あるいは重ならなかったりで、不思議な気持ちになりました。

そのような状況に触発されたのだと思います。当時進めていた別の企画をストップして、別の物語を映画にしようとスタートしたのが、この「大いなる不在」という映画です。



今回ようやく映画が完成し、トロント国際映画祭のコンペティション部門という、身に余る大きな舞台に選出され、ワールドプレミアを行うことに決まりました。北九州で撮影している時、単なる郷愁ではない何かを常に感じていました。19世紀末から20世紀にかけて日本の産業近代化の礎となった歴史、幼少期に心躍らせたスペースワールド、そして、今また時代の変化に合わせて生み出されている新たな景色。それらの豊かなレイヤーを、2020年代の映画として画面に定着させたいと思いました。

また、撮影時には北九州市(フィルム・コミッション)の多大な協力をいただき、書類や机の上のことではなく、フィジカルに膨大な撮影の時間を共にしていただきました。そのことがいかに心強く、そして有り難かったことか、言葉に尽くすことはできません。この場を借りて、北九州フィルム・コミッションの皆様、そして、その公的な活動を支えていただいている市民の皆様に御礼申し上げます。

そのようなあらゆる意味においても、この映画が世界で最も重要な映画祭の一つであるトロント国際映画祭からの評価を得て、コンペティションの約10作品の中にノミネートしていただいたことは、映画作家としてのキャリアや実績云々を超えた嬉しさがあります。9月のトロントでの世界初上映を経て、遠くない将来、北九州でもお披露目できることを心より願いつつ、そこにたどり着いた時、皆様と劇場でお会いできる日を楽しみにしています。

2023年8月3日「大いなる不在」監督 近浦啓

◎WEB 情報解禁:8/3(木)AM 7:00

《初共演》森山未来・藤竜也が親子を演じる 『大いなる不在』

第48回トロント国際映画祭でワールドプレミア上映決定！ キャストコメント到着！海外ポスター初解禁

お世話になっております。デビュー作が国際映画祭で高く評価された近浦啓監督の第二作目となる『大いなる不在』が、第48回のトロント国際映画祭のコンペティション部門へ選出されたことが発表となりました。それに合わせて、キャストが発表となり、キ海外版ポスターが初解禁となります。ぜひ、本情報をご紹介しますようお願い申し上げます。

森山未来×藤竜也が親子役で《初共演》『大いなる不在』が 第48回トロント国際映画祭《コンペティション部門》へ選出！



森山未来が主演し、藤竜也、真木よう子、原日出子が出演する映画『大いなる不在』が、現地日程9月7日(木)～9月17日(日)開催第48回トロント国際映画祭のコンペティション部門となる「プラットフォーム部門」で、ワールドプレミア上映されることが決定し、キャストの喜びのコメントとともに、海外ポスター・特報が解禁となった。

トロント国際映画祭は、長らく非コンペティションの映画祭といわれていたが、2015年にコンペティション部門を新設。名匠ジャ・ジャンクーの監督作品名にちなみ「プラットフォーム部門」と名付けられた。芸術的価値が高く、力強く監督のビジョンを示している作品を中心に選出され、過去に第89回アカデミー賞《作品賞》となった『ムーンライト』がこの部門で上映されたことから、アカデミーの前哨戦として注目されるトロント映画祭の中でも特に注目される部門になっている。

また、日本人監督としてこのコンペティション部門に招待されるのは、黒沢清監督（『タゲレオタイプの女』2016）以来、2人目となる。

本作では、森山未来演じる主人公の父親を藤竜也が、妻を真木よう子が演じる。また、物語で重要な鍵となる父親の後妻を、原日出子が演じている。森山と藤は《初共演》となる。森山と真木は『モテキ』（2012）ぶりの共演となり、藤と原は、『シヨンベンライダー』（1993）以来40年ぶりの共演に。

本作の監督を務めるのは、近浦啓。長編デビュー作『コンプリシティ／優しい共犯』（2018）が、トロント、ベルリン、釜山などの名だたる国際映画祭に正式招待され、本作が2作目の長編作品となる。

本作のスタッフは、『誰も知らない』『海よりもまだ深く』などの多くの是枝裕和監督の作品を支えた山崎裕が『コンプリシティ／優しい共犯』に続き撮影を担当し、本作は全編35mmフィルムで撮影された。サウンドミックス・デザインには、『ドライブ・マイ・カー』などの野村みき・大保達哉のユニットP.A.T Worksが担当。音楽は、これが長編映画初劇伴作品となる新進気鋭の作曲家糸山晃司が担当している。

本作は、コンペティション部門にノミネートされた10作品の中から選出される「プラットフォーム・アワード」に加えて、すべての上映作品から選ばれる「観客賞」（ピープルズチョイス・アワード）の対象となっており、映画祭期間中に、キャストの森山未来、藤竜也、真木よう子、原日出子が、揃って映画祭への出席を予定している。

映画『大いなる不在』は、2024年の日本公開を予定している。

キャスト・監督のコメント全文は、次ページより

森山未来(もりやま・みらい)コメント

この度は『大いなる不在』が評価され、トロント国際映画祭のコンペティション部門という名誉あるセクションに選ばれたことを、心から光栄に思います。ある種の虚構の世界で生きる父にまるで俳優のように寄り添い、やがては世界に溶けていく彼を穏やかに見守る。近浦監督の実体験に着想を得たそんな物語に役者として参画するという、不可思議なレイヤーの海の中で揺れていた北九州での記憶が甦ります。トロントでの上映を経て、多くの方にこの作品を観ていただけることを願っています。

藤 竜也(ふじ・たつや) コメント

2022年、年が明けて間もないころ、近浦監督から新作のオファーを頂いた。『Empty House』『コンプリシティ/優しい共犯』に続いて3回目のご指名だった。嬉しかった。光栄なことだと思った。でも、期待に応えられるかどうか心配だった。台本を読んだ。読んだ、読んだ。私が演ずる男が好きになった。物理学を研究して、その分野で名を残したが、うんと普通で、煩惱にまみれた男。純粹ばかのおとこ。私は新幹線のように素早く、この男の中の入りこめたように思います。『大いなる不在』の試写を見ました。私の魂のどこかにくらった重い衝撃！これは何だろう？無理に分析したら、大切な何かが行方不明になりそう。この映画は、一人ひとりの見る側と、近浦さんの映画との会話で成り立つのではないかと思った。

原日出子(はら・ひでこ) コメント

この度は出演作『大いなる不在』が、栄誉ある映画祭のコンペティションに選出されました。このような素晴らしい作品に出逢えましたこと、心から感謝いたします。そして近浦監督をはじめ映画制作に携わった全ての方たちにお祝い申し上げます。ある種ドキュメンタリーのようなリアリズムと、計算され、完成され尽くした作品作りの中で直美の役を生きた時間は私にとってかけがえない時間となりました。素晴らしい作品に参加できたことを光栄に思います。是非世界の舞台に羽ばたいていって欲しいです。

真木よう子(まき・ようこ) コメント

私は、初めて生きている、歩く芸術に目を奪われた。それが森山未来の仕草であった。なんて美しく、気高く、女の私が敗北をくらった、許すまじ森山未来。台本を頂き、キャストの名を聞き、恐らくその頃からこの様な名誉を頂く作品だという事を疑う事すら愚かな事だと感じた様に思います。だけど、多くの人には共感させない。お目が高い人だけご覧下さい。

近浦 啓(ちかうら・けい)監督 コメント

この映画は、その名の通り「不在」についての映画です。「ない」何かに向けて目を凝らすことは、その輪郭を形づくる「ある」何かに対して思索を深めることになります。そんな抽象的な考えを具象化し、ミステリー傾向の高いエンタテインメント映画に仕上げたい、という想いでスタートしました。日本が誇る役者の方々、そして、技術者の方々が集まってくれたことにこの場を借りて深く感謝いたします。トロント国際映画祭のコンペティションという大きな舞台でこの映画が船出できることをとても嬉しく思います。いつかきっとこの航海が、日本の劇場に辿り着きますように。心から願っています。

(近浦啓監督プロフィール)

2013年、短編映画『Empty House』で映画監督としてのキャリアをスタート。2015年から2017年にかけて、短編映画2本を発表し、第38回クレルモン=フェラン国際短編映画祭、第70回ロカルノ国際映画祭、第42回トロント国際映画祭をはじめ数多くの映画祭に選出され、長編映画制作への土台を築く。2018年、『コンプリシティ/優しい共犯』で長編映画デビュー。第43回トロント国際映画祭(ディスカバリー部門)でのワールドプレミア上映を皮切りに、第23回釜山国際映画祭(アジア映画の窓部門)にてアジアプレミア、さらには、第69回ベルリン国際映画祭(キュリナリー・シネマ部門)でヨーロッパプレミアを果たし、世界各国のトップクラスの映画祭に招待。日本国内では、第19回東京フィルメックスで、観客賞を受賞。2020年2月に全国劇場公開された。2023年、2本目の長編映画である『大いなる不在(英題: GREAT ABSENCE)』を発表。第48回トロント国際映画祭のコンペティション部門でのワールドプレミアが決定した。

監督・脚本:近浦啓 共同脚本:熊野桂太 出演:森山未来、藤竜也、真木よう子、原日出子 ほか
助成:文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業)独立行政法人日本芸術文化振興会
特別協力 北九州フィルム・コミッション 製作:クレイテプス © 2023 CREATPS

2024年公開予定

【トロント国際映画祭】

《概要》

- ・ 1976年から続いている北米最大かつ最多のプレミア数を誇る国際映画祭
- ・ オスカー・レースの始まりとなる重要な映画祭（アカデミー賞の前哨戦）
※ 例えば、「ノマランド」（2021年アカデミー賞作品賞等受賞）や「グリーンブック」（2019年アカデミー賞作品賞等受賞）など
- ・ 国際映画製作者連盟公認であり、毎年の上映数は約400作品、来場者数は約38万人

トロントはカナダ最大の都市であり、人口約273万人のカナダ経済の商都。文化面でも国際的に重要な役割を果たしており、世界クラスの博物館や美術館、劇場、フェスティバルなどが多くある。

《開催時期》

2023年9月7日～9月17日 ※ 第48回

《出品部門：プラットフォーム部門》

- ・ 2015年設立のトロント国際映画祭唯一のコンペティション部門
- ・ 芸術的価値が高く、力強く監督のビジョンを示している作品を中心に選出される
- ・ わずか10作品という狭き門ということもあり、世界的に非常に注目を浴びている
- ・ 日本単独制作でこの部門に選出されたのは、「大いなる不在」が初

※ 『大いなる不在』の受賞対象について

「プラットフォーム・アワード」に加えて、すべての上映作品から選ばれる「観客賞」（ピープルズチョイス・アワード）の対象となっている。